

第6回/オンライン

事前学習：両立家庭を想像しよう

授業全体の目的

- ・漠然とした両立家庭のイメージを、視点を伝えて事例を見ることで明確にしていく
- ・両立家庭への質問準備と実習動機付け
- ・子どもとの関係づくりに向けて計画の実施。

終了後の学生のイメージ

- ・帰宅後の家庭の様子をイメージすることができる。
- ・お子さん、パパ・ママの状況によって、帰宅後の様子が異なることを理解している。
- ・実習に向けて、聞いていきたいことがヒアリングシートに書き出せている。
- ・子どもとの関係づくりにむけ、気持ちを想像できる
- ・子どもとの実習に向けて、イメージを持ち両立家庭ヒアリングの準備ができている

進行の詳細

時間	内容の詳細	備考・留意点他	資料
【5分】	振り返り・導入		
【10分】	答えのない問題（3～6） （投票機能を使用したワーク） 前回までの講座内で実施した、『社会人登壇者の話』『ジェンダー』『固定概念』『性的役割分担』の話を踏まえて、自分ならどのような選択をするのか回答を考えよう <前提> 共働き夫婦のパートナーである	※必ず前提を伝えること 正解がない問題である。 それぞれ個人の価値観で自由に選択させることを伝える。 どれを選択しても納得感のある回答ではない。 一人の価値観、一人の判断では選択できないことを感じるのがポイント	※投票機能に選択肢を事前に入力または、チャットなどで回答を選択

	<p>パパ：40 歳 ママ：35 歳 息子：7 歳 娘：5 歳</p> <p>【問 1】 保育園の先生から急な呼び出し 「午後 3 時までに来てください！」 ママはクライアントとの会議・ パパは月末の役員会議</p> <p>回答選択肢 A ママがクライアントとの会議を変更 B パパが上司に相談し、役員会議を欠席 C お迎えの代理をお願いする ※解答選択後何名かに選択の理由を聞く</p> <p>【問 2】 ママに海外赴任の話が会社からありました。 パパであるあなたはどうしますか？ ママであるあなたはどうしたいですか？</p> <p>回答選択肢 ・パパが会社を休職して家族で帯同する ・ママが海外赴任を断る ・ママだけ単身で赴任・パパと子どもは日本に残る</p>	<p>両立家庭を取り巻く社会の考え方には、まだまだ固定概念や性的役割分担意識がある事実を捉える。</p> <p>子育てを担う人によって子どもの成長に影響するのではなく、子どもにとっても多様な大人と関わりながら成長することが望ましいことを伝える</p>	
--	---	---	--

	<p>・ママと子どもたちで海外赴任・パパは日本に残る</p> <p>※解答選択後何名かに選択の理由を聞く</p> <p>【問3】</p> <p>パートナーが子育て環境を理由に地方へIターンを希望</p> <p>収入はこれまでの半分</p> <p>回答選択肢</p> <p>・収入&キャリア維持のため、片親だけ単身赴任または2拠点生活</p> <p>・両親とも子育てを優先、転職、家族で移住</p> <p>※解答選択後何名かに選択の理由を聞く</p> <p>ー簡単に選択できましたか？</p> <p>両立を取り巻く社会の考え方は様々あります。</p> <p>ー例えば、働きながら子育てをすることに対して、母親は子育てに専念すべきとか、家庭の収入は父親が担うもの</p> <p>ーキャリアについても、育児休暇や時短勤務は母親がとるべきとか、父親は子どもをもったらさらに仕事に邁進するべきとか</p> <p>ー子どもを取り巻く環境でも、PTA や懇談会などの学校行事は</p>		
--	--	--	--

	<p>母親が参加すべきもの、家事育児は父親にとって「手伝う」ものでともにやることではない</p> <p>ーこれらの考え方って本当にそうしなければならないことなのでしょうか？仕事も家事も子育ても、母親・父親は関係なく共にやるものではないでしょうか？</p> <p>ー一つの調査を紹介します。</p> <p>3歳児神話を知っていますか？</p> <p>「3歳までは、母親が見ていないと子どもの発達に影響がでる」と考えられていたことです。しかし厚生労働省の全国80箇所の夜間保育所での追跡調査の結果、保育時間の長さでコミュニケーションや運動発達の差はないとわかりました。しかし「家族で食事をする機会」によってコミュニケーションの差が生まれたとのこと。つまり、誰が長く子どもに関わるかではなく家族で楽しく食事をする機会があることが大切であるとの結果です。</p> <p>ー子どもは、母親父親だけでなく兄弟、祖父母、お友達、先生など様々な関係性の中で育ちます。どんな人にどんなふうに関わって欲しいのかという視点が</p>	
--	---	--

	<p>大切です。</p> <p>ーそして、なにより母親、父親が楽しそうに家事・育児・仕事をしている姿が子どもの成長にとってもいいことなのではないでしょうか？そのために、周りのサポートを得ながら家族の形を作ることが大切です。</p> <p>ー子どもの成長に合わせて必要なサポートが変化してきます。</p> <p>パートナーとともに話し合いながら決めていくといいでしょう</p>		
【30分】	<p>共働き家庭の帰宅後の様子を観る（動画視聴ワーク） 17～35</p> <p>目的…両立家庭へのインタビュー前に両立家庭の帰宅後のイメージを持つ</p> <p>①共働き家庭の帰宅後のイメージをチャットへ投稿</p> <p>②映像資料視聴ポイント解説</p> <p>③映像視聴</p> <p>画像1：保育園から帰宅</p> <p>画像2：食事の準備と食事</p> <p>画像3：入浴前後</p> <p>その他：寝る前など</p> <p>④映像視聴後気づきの共有（10分）</p>	<p>①動画を観る前に「今」のイメージを具体テクにしておくことで気づきの視点を持っておく</p> <p>②漠然と観ることを避けるため、特に注目したいポイントを解説</p> <p>③帰宅・食事準備・食事・入浴前後・寝かしつけ前の時間などシーンを区切って動画を準備。2家庭の事例を準備しておくと比較対比ができて良い。</p> <p>④動画をみて気がついたことをチャットへまたは言葉にしてもらう</p>	<p>※共働き家庭の動画をご準備ください。</p>

<p>【30分】</p>	<p>子どもとの共通体験を考えよう 41～55</p> <p>目的：子どもと関わる時の心構えやポイントを知り、具体的な計画をすることで、触れ合いが楽しみになる</p> <p>子どもとコミュニケーションをとるためのポイントを伝える</p> <p>①関心を持つこと</p> <p>ー好きなキャラクター、好きな遊び、流行っていること、保育園や学校での出来事など</p> <p>ーもし好きなものが一緒なら「それ私も好き！」と共感を伝えましょう</p> <p>②共通点を見つけること</p> <p>ー自己紹介をしましょう</p> <p>ーニックネームなど呼び方を伝えましょう。自分の好きなことを紹介し、～ちゃんはどお？～君と同じところあった？など、共通点を見つける視点で話をしましょう</p> <p>③共通の体験をすること</p> <p>体験をしながら、学生側が一方的に伝えるのではなく、こどもに先生になってもらい、教えてもらおうと話が広がりやすいです。</p>	<p>※月齢や子どもの発達、場所によってコミュニケーションの取り方が変わること</p> <p>※共通体験アイディアの提示</p> <p>※自己紹介の方法の提示</p> <p>※共通体験は15分～20分間子どもとオンラインで遊べることを目標とする</p>	<p>※実習家庭の発表と家庭のプロフィールを伝える</p> <p>6_3_共通体験計画シート</p>
--------------	---	--	--

	<p>実習家庭の紹介</p> <p>オンラインでできる子どもとのコミュニケーション（遊び）のアイデアの紹介</p> <p>ー絵本の読み聞かせ・絵しりとり・折り紙や紙おもちゃ工作・宿題サポートなど</p> <p>自己紹介カードなどで共通点を見つけるなど</p> <p>子どもの共通体験実習の実習プランを検討</p> <p>個人ワーク（5分）</p> <p>目標設定・共通体験アイデアをワークシートに記入</p> <p>グループワーク（15分）</p> <p>ペアの目標・分担・タイムライン・必要な物のリストアップと分担・実習家庭への確認項目のあらいだし</p>		
【10分】	ステップアップシート記入		
【5分】	次回について	実習についての告知	

【動画教材について】

ー映像資料は以下のようなシーンを準備

保育園から帰宅・食事の準備と食事・入浴前後・寝る前

親子、兄弟が関わるシーンや、工夫のあるシーン、パートナーとの分担がわかる画像などがよい。

※動画が準備できない場合は、ゲスト登壇を実施。

家事・育児で工夫していることの紹介や、パートナーとの分担、子どもとの関わりをテーマに話をしてもらう。具体的には、作り置きについてや時短調理器具について、シッターやファミリーサポートの利用、家事や保育園の送迎の分担、子どもとの会話や遊び、スキンシップなど。

【実習について】

ー1 家庭＋学生3名で実施

※お子さんの性別・学生の性別は問わない

※1 家庭に対して3名の学生がよい。2名だと欠席の場合一対一になってしまう。

4名だと関われる学生と関われない学生が出てしまう

【実習家庭選定について】

ー大学生へのキャリア教育に興味のあるご家庭であること

ー年長～小学校3年生までのお子さんがいらっしゃるご家庭

ーパートナーと参加が可能な方

ー事前にヒアリングを実施し、「仕事・子育て・パートナーシップ」について、「楽しいこと、苦しいこと」を率直に感じ、自分なりに工夫をしたり、交渉をしたりしながら、生き生き継続就いていらっしゃるご家庭。

ー企業にお勤めの方だけでなく、転職されたかた、多様な働きかたをされている方、起業されたかた、フリーランスの方など多様な社会との関わりをもたれている方に依頼する。

【家庭と学生のマッチングについて】

ー学生の将来像と近い家庭とのマッチング

ー学生の学年や学部をミックス

ー対話が進むメンバーのアサイン

※多角的な視点での意見が出ること、将来像に紐づけて検討できるようなマッチングを検討する

【事前準備について】

ーモチベーションシート、タイムラインシートをご家庭に準備を依頼